



東日本大震災復興続く
東日本大震災から一年

震災から絆へ

錦江町秋祭りでは、東日本大震災の復興支援として、東北で獲れたサンマを購入し販売しました。販売した代金は義援金として東日本大震災の復興支援として寄付しました。その他にも岩手県大船渡市の子供達を受け入れ交流するなど、新たな交流から絆が生まれました。



錦江町秋祭り



2011年3月11日14時46分、宮城県牡鹿半島の東南東沖130kmの海底を震源として東北地方太平洋沖地震が発生し、日本における観測史上最大の地震となりました。

この地震により大津波が発生し、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらしました。

また、多くの方々が親や子供、兄弟や親戚を亡くし、警察庁発表（平成24年2月10日現在）によると、死者は15,848人、警察に届出があった行方不明者は3,305人と発表されました。

【地震の爪痕】

東日本大震災の爪痕は大きく、地盤沈下やがれきなどなかなか復興が進んでいない様子。2月には復興庁が開設され、国も有効かつ迅速な対応を進めています。しかしながら、いまだに余震や放射能の影響があり、予断を許さない状況です。

【錦江町の取り組み】

錦江町では、4月3日から8月26日まで職員を派遣し、岩手県大船渡市への支援を行ってきました。また、町民

の方々から多くの支援物資や義援金を頂き、被災地へ送りました。

【私たちができること】

3月11日で東日本大震災から一年経過しようとしています。今回の震災を教訓に津波に対する意識や地震・防災に対する意識を高め、普段から防災グッズや避難経路の確認をしておく必要があります。また、携帯電話やラジオなどで常に最新の情報を知ることが大事です。